

高齢者会館リニューアルの進捗状況について

高齢者会館では、名称変更などのリニューアルを予定しており、現在の進捗状況について以下のとおり報告する。

1 高齢者会館の利用状況について

高齢者会館は、老人福祉法に基づく老人福祉センターであり、高齢者の地域における交流及び自主的な活動の促進を図るほか、高齢者が健康で充実した生活を送れるよう支援することにより、その福祉の向上を図ることを目的とした施設である。

令和5年度の延べ利用者総数は172,216人で、前年度比26,291人増であるものの、新型コロナウイルス感染症の影響前である令和元年の245,688人という規模には回復していない。中野区立高齢者会館条例上の高齢者は60歳以上となっているが、実際には70歳代後半から80歳代の利用者が多く、次の世代となる75歳未満は身体的、文化的な違いもあり、新規利用者としてつながりにくい現状がある。

また、集会室は登録すれば一般の区民団体も使用することができるが、空室状況が分かりにくいことや、集会室の一般団体への貸出が可能なことが十分に認識されていないなどの要因から利用率は伸び悩んでいる。

2 高齢者会館リニューアルの基本的な考え方

高齢者会館をスマートウェルネスシティ（以下、「SWC」という。）の理念を実現させる推進施設の一つと位置付け、区民の健康度と幸福度を高めるコミュニティづくりの中心として機能させるため、施設名称の変更及び施設・設備の環境改善などのリニューアルを行う。これにより個人利用及び団体利用の拡大とともに、利用者間の交流、利便性向上を図るものとする。なお、設置根拠となっている老人福祉法に基づく老人福祉センターとしての位置付けは変更しない。

3 施設名称の変更

SWCの理念である「ウェルネス（＝健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること）」を冠した「健幸プラザ＋現在の館名」を基本とした名称に変更する。

なお愛称は、長年、区民に親しまれていることから現行のまま使用するほか、所在町名と名称が乖離していたり、類似の名称で利用者の混乱を招いたりしている名称を改称し、不都合の解消を図る。

- パターン1 正式名称のみ使用していた施設
（例） 白鷺高齢者会館 ⇒ 健幸プラザ白鷺
- パターン2 愛称がある施設
（例） 沼袋高齢者会館（愛称：つつじ会館）
⇒ 健幸プラザ沼袋（愛称：つつじ会館）
- パターン3 所在地と名称が一致しない施設
（例） 宮園高齢者会館 ⇒ 健幸プラザ東部
- パターン4 近隣に類似する名称の会館があり、利用者の混乱を招いている施設
（例） 上高田高齢者会館と上高田東高齢者会館
⇒ 上高田高齢者会館を健幸プラザ上高田二丁目公園に
上高田東高齢者会館を健幸プラザ上高田東に変更

4 施設・設備の環境改善

（1）施設改修

集会室の和室（畳）から洋室への変更や調理室の改修を行い、区民が利用しやすい環境を整え、団体利用において、高齢世代のみならず、あらゆる世代の活用を促進する。

（2）体組成計等健康セルフチェック機器の設置

健幸ポイントを活用した健康づくり促進のための実証事業参加者がデータ連携可能な体組成計と血圧計を館内に設置する。またそれ以外の会館利用者にも利用してもらい、日常的にセルフチェックを可能にすることにより、健康習慣の見える化・意識づけを行う。

（3）施設予約システムの導入

施設予約システム導入により、高齢者会館利用者が従来通り予約を円滑に行えるよう事業者の研修や利用者説明会を実施し、デジタルデバイド解消に向けて支援する。

（4）利用時間枠の変更

集会室貸出の利用時間のうち、午後枠を次の通り変更する。

（現行）午後1時～午後5時 ⇒ 午後1時～午後3時、午後3時～午後5時

5 会館事業の見直し

既に各会館で行われている高齢者と他世代との交流についての好事例を共有し、複数の会館に展開を図るなどし、交流の促進を図る。また、健康・生きがいづくり事業等、介護予防事業の在り方について再検討を行う。

6 意見交換会の実施

各高齢者会館の運営事業者に対し上記の内容について説明し、意見を聴取する意見交換会を令和6年11月と令和7年1月に実施した。意見交換会で聴取した意見は別紙のとおり。

7 今後の予定について

令和7年	6月	高齢者会館条例改正（令和8年4月施行）
令和7年	7月以降	会館の看板、案内板等の更新開始
令和7年	8～9月	会館への体組成計、血圧計等の設置
令和7年	9月	会館受託事業者向け施設予約システム操作研修
令和7年	10月	健幸ポイントを活用した実証事業開始
令和8年	4月	新名称（健幸プラザ）での運営開始

【別紙】 高齢者会館意見交換会での主な意見

会館運営事業者の意見	区の考え方
施設名称の改称について	
「健幸プラザ〇〇」と地域名の前に付けることで、区民活動センターと区別しやすくなる。	「健幸プラザ+地域名」を基本形としていきたい。
利用者に馴染みのある会館の愛称は引き続き使用したい。(昭和高齢者会館の「遊和」、沼袋高齢者会館の「つじ会館」など)	現在使われている愛称は今後もそのまま使用して差し支えない。
しんやまの家、東中野いこいの家、若宮いこいの家という名称については、「健幸プラザ」の後にそのまま残してほしい。	「●●の家」の名称の会館は変更しない方針である。
「ウェルネス＝健幸」という言葉は造語ではないだろうか。今後外国人も増えていく中で、意味が通じずに混乱を招くのではないか。	「ウェルネス＝健幸」はスマートウェルネスシティ中野構想の基本理念なので、今後様々な機会をとらえ周知し区民への浸透を図る。
施設予約システムの導入について	
今まで1枠(13:00～17:00)だった午後の時間を2枠(13:00～15:00、15:00～17:00)に分けてほしい。	午後枠を2つに分けて予約できるよう検討を進める。
2枠に分けた場合、半分の枠を1枠としてカウントすると予約の限度が4コマとなり、利用できる時間が少なくなるため、0.5コマとして換算してほしい。	予約システム上、申請できる実質的なコマ数が減らないよう検討する。
2枠に分けた場合、利用者の入れ替え時に現状回復の時間が短く、次の利用者から苦情が出る恐れがある。	入れ替え時にトラブルが起きない運用を検討する。
当日キャンセルが多発している。無料であることで責任感が低くなるのではないか。	当日キャンセルに対するペナルティを導入するか検討を進める。
高齢者会館では今後も無料の予約対応を希望する。	施設予約システム導入後は原則各団体が申請入力するが、入力が難しい高齢者には区民活動センターや高齢者会館でサポートを行う。
高齢者が借りられなくなることが心配だ。	施設予約システム導入後も従来通り高齢者団体が抽選で優先されるため、借りられなくなることはない。
施設予約システムが始まる前に、区民活動センターと打合せをし、予約のルールを確認したい。	予約システム導入により変更される手順(抽選会の廃止等)について説明を行う。
システムについて各高齢者会館で説明してほしい。利用者への説明会を行ってほしい。	各高齢者会館または圏域毎の説明会の実施について検討する。
体組成計について	
データを測るだけでなく、そのデータを活用する方法を考えるべき。	実証事業参加者のデータは健幸ポイントプログラムについて知見を有する事業コンソーシアムと契約し、分析を行う予定である。
高齢者が靴下を脱いで利用するのは危険が伴うため、手すりを設置してほしい。	高齢者が安全に利用できるよう対策を検討する。
裸足で測定となると、毎回消毒が必要になる。	管理者の負担が増えないよう利用者自身が消毒を行えるよう対策を検討する(使い捨て消毒シートの配置等)。
介護予防事業が無い日には、一人で高齢者会館を運営しており、機器の使い方が分からない利用者に対応出来るか心配だ。	機器の分かりやすい使用方法の掲示等により管理者の負担にならないよう工夫する。
会館事業の見直し(他世代との交流について)	
他世代を交えたクリスマスイベントのお楽しみ会を実施している。	好事例について共有し、各会館での交流を促進する。
小学校の地域交流事業に参加し、昔遊びを行っている。子供の父母も多く参加している。	
近隣の保育園の園児との折り紙やダンスで交流があり、ミニデイにも参加してもらっている。	
夏の熱中症対策事業の際に、近所の公園からお茶をもらいに来る子供もいる。	
50歳代から会館に来てもらい、次世代に利用してもらえるような取り組みが必要。	前期高齢者や60歳未満の世代が参加できるような事業の実施を検討する。
子供は予想外の動きをするため、高齢者会館は子供向けに作られた施設ではなく、バリアフリー化に係る改修と併せて危険な箇所がないか施設の点検を行う。	
高齢者会館の部屋は事業でほとんど使用されており、若い人との世代間交流が難しい。	施設予約システムの導入により時間外や休日の利用を促進することにより、自然的な交流機会の増加を期待している。